

老いて一人「迷惑かけたくない」



独り暮らしのお年寄りが亡くなった後、遺品整理士らの手により丁寧に整理される印鑑や年金手帳などの遺品＝6月、札幌市内（エンディング総合支援サポートの会提供）

遺品整理 生前から支援

【帯広】お年寄りの孤立死が全国的に目立つ中、十勝管内の遺品整理士らを中心とするグループが、生前から遺品の整理や、葬儀や法事の実施などを請け負う「エンディング総合支援サポートの会」(札幌)を設立した。社団法人「遺品整理士認定協会」(千歳)によると、生前から孤立死対策支援に取り組む団体は、全国的にも珍しいという。

2日に設立されたサポートの会の前身は、「孤立死を減らし法令順守で遺品整理を行う会」。地元の遺品整理士らが今年5月に帯広で結成し、遺品売買のトラブル防止や遺品処分に関する相談業務を行ってきた。

長の池田智裕さん(35)は「万一の際、身内や大家さんに迷惑をかけたくない」と、生前から遺品整理を検討する高齢者が増えていると、サポートの会設立の理由を説明する。

会には、遺品整理士のほか、弁護士、司法書士、介護福祉士、心理カウンセラーなど専門家15人で構成。通常の遺品整理のほか、葬儀の事前予約や遺言書の作成、不動産登記や相続税などの法律問題まで扱う。相談はいつでも無料、契約する場合は「万一の際、身内や大家さんに迷惑をかけたくない」と、生前から遺品整理を検討する高齢者が増えていると、サポートの会設立の理由を説明する。

「遺品整理士の健康化を目的に、昨年設立された社団法人「遺品整理士認定協会」(千歳)が認定する民間資格制度。通信講座で遺品整理の作業手順や適正な処分方法、廃棄物処理の関連法や依頼者へのマナーなどを学んだ後、試験で合格すると資格が与えられる。同協会によると、現在、全国に約280人、道内には12人の遺品整理士がいる。

十勝の整理士ら専門家15人

2日に設立されたサポートの会の前身は、「孤立死を減らし法令順守で遺品整理を行う会」。地元の遺品整理士らが今年5月に帯広で結成し、遺品売買のトラブル防止や遺品処分に関する相談業務を行ってきた。

札幌で会設立

葬儀や遺言書相談も

前売券発売中